

# 沖縄戦戦没者遺体収容体験

## 第3回

# 参加者の声

平成19年1月19日  
から21日「第3回沖縄戦  
戦没者遺体収容体  
験」を開催しました。  
今年約45名の参  
加(会員や遺族)で、  
「戦争と平和」につい  
て考えました。(詳細  
1面)  
初めは、「何をす  
るか」「不安」「恐怖」  
そんな思いで沖縄に  
来た参加者たちでし  
たが、徐々に変わっ  
ていく沖縄への思い。  
ここに一人ひとりの  
「気持ち」が、多く  
の心々に伝わり、戦争  
の悲惨さを忘れずに、  
また平和を自分たち  
の手で守っていく事  
に繋がっていくこと  
を望みます。  
皆さんに伝えたい  
参加者の声を紹介し  
ます。

### 改めて知った戦争

河野 菜穂



「遺体収容」というこ  
とで、初めは不安でいっ  
ぱいで、「遺骨を見つ  
けたら怖い」と思っ  
ていました。けれど、収容  
していくにつれ、戦争で  
命を落とした戦死者の  
方々をそのままの状態に  
しておくことは「ひどい  
な」と思い、早く土の中  
から出してあげたいと  
思っただけになりました。  
今回の「遺体収容」で、  
今まで話や写真でしか知  
らなかった戦争を初めて  
正面から向き合っ

ることができたように思  
います。改めて戦争の恐  
ろしき、命の大切さを身  
にしみて感じました。も  
う二度と戦争という悲し  
いことがおこらないよう  
今回の経験で感じたこと  
を家族や身の回りの人達  
に話し、平和の尊さを伝  
えて行きたいと思いま  
す。

### 遺骨ではない、遺体である

北之園 晶見



初めて、参加させても  
らいました。  
昨年、TBSの「NE  
WS23」で、「沖縄遺体収  
容体験ツアー」が放送さ  
れ、その時に「NPO法  
人戦没者を慰霊し平和を  
守る会」の副理事長であ  
る塩川正隆さんからの一  
言がすごく感動しました。  
その一言とは、「遺骨  
じゃなく遺体である」  
私は戦争経験がありま  
せんが、この体験で「遺  
骨」「遺品」を探し出すこ  
とで亡くなった人の役  
に立ちたいと思いました。  
また、このツアーで体  
験したことを職場や地域  
の人に伝えて行きたいと  
思います。

### 戦争は二度と繰り返してはならない

菅原 智之

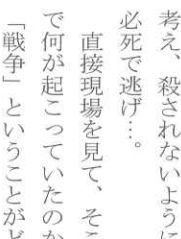


私は初めて「沖縄戦戦  
没者遺体収容体験」に参

加させて頂きました。  
これまでの日常の中で  
「戦没者の方がいらっ  
しゃったからこそ今の自  
分たちの生活がある」と  
いうことは頭では分かっ  
ているつもりでした。  
しかし、実際に現場で  
情景を想像しながら遺骨  
を捜すことで、そのよう  
な簡単な言葉ではとても  
表現できない現実があっ  
たことに気づきました。  
私達と同じくらい若い若者  
が人を殺すことを真剣に  
考え、殺されないように  
必死で逃げようとして  
直接現場を見て、そこ  
で何が起ったのか、  
「戦争」ということがど  
のようなことを引き起こ  
すのか、しっかりと考える  
必要があると感じました。  
今回の体験を通して、  
戦争で犠牲になった方  
人戦没者を慰霊し平和を  
守る会」の副理事長であ  
る塩川正隆さんからの一  
言がすごく感動しました。  
その一言とは、「遺骨  
じゃなく遺体である」  
私は戦争経験がありま  
せんが、この体験で「遺  
骨」「遺品」を探し出すこ  
とで亡くなった人の役  
に立ちたいと思いました。  
また、このツアーで体  
験したことを職場や地域  
の人に伝えて行きたいと  
思います。

### 「愛国心」への疑問と不安

谷川 仁

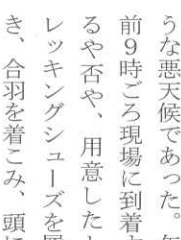


「骨掘りに行かんね、  
沖縄に行かんね、ワッハ  
ハハ」2年程前のある居  
酒屋で耳にした友人の言  
葉だった。テレビ映像や  
新聞紙面で報道される海  
外の様々な国際紛争に対  
して、全ては「他の国の  
出来事であって、我が国  
には関係ないこと」、  
「戦争なんて他人事」と  
して捉えていた自分には、  
和やかな雰囲気の中で発

せられた意外な言葉に、  
何も考えずに「行っても  
良いよ」と返答した。今  
になって思えば、友人の  
緻密な計算があったかも  
知れない。ただ、素直に  
診療放射線技師ゆえの知  
識を活かす、また医療人  
ゆえの「人の生死」を見  
つめる意味を含めて今回  
の「沖縄遺体収容体験ツ  
アー」に参加した。

### 国は臭いものに蓋

西村 和孝



1月下旬の沖縄は天候  
の悪い日が多いようで、  
発掘当日も小雨が降りそ  
うな悪天候であった。午  
前9時ごろ現場に到着す  
るや否や、用意したト  
レッキングシューズを履  
き、合羽を着こみ、頭  
には作業性を考慮したヘッ  
ドライト、片手には熊手  
という出で立ちで壕に  
入った。出発前に、前  
回の体験ツアーの様子や  
沖縄戦の資料映像などを  
観ていたこともあり、発  
掘のイメージは掘んでい  
たが、生い茂る葛や根、  
覆い重なる岩石の除去に  
は手を焼いた。午後2時  
ごろ友人ら3名で一心不  
乱に作業を進めていたと  
ころ、ある意味幸運にも  
頭蓋骨、脊椎、上腕骨な  
ど人骨の一部を次々に発  
見した。出土した人骨を  
最初に手にした時には、  
何とも表現し難い驚きと  
興奮を感じ、また戦争の  
後に残る現実に対して憤  
りも感じた。発掘したこ  
遺体は、恐らく砲撃を受  
けて爆死されたものと思  
われ、人骨は散乱した状  
態で埋もれていた。脊椎  
の出土は人の死を決定づ  
けるものであり、国家の  
欲のために犠牲になった  
人の死と直面した感覚は、  
医療の中で直面するもの  
とは明らかに違ったもの  
であった。ツアーに同行

された遺族の方が、涙な  
がらに述べられた「愛国  
心」という言葉に対する  
疑問と、戦後再びこの言  
葉が使われ始めているこ  
とへの不安は、今回の実  
体験により十分に共感で  
きた。最後に、本ツアー  
の世話役を務めて頂いた  
友人らに感謝申し上げま  
す。

### 私にできること

原 千恵



今回、私と同じ職場か  
ら大勢の方が参加される  
中に、こっそり紛れ込む  
ようにして参加させてい  
ただきました。というの  
も、蛇や害虫がいる草木  
の生い茂った場所、また、  
かつて戦場だった場所  
の遺体収容作業というこ  
とで、漠然とした不安恐  
怖から当初は積極的な  
気持ちでは参加してい  
ませんでした。  
しかし、実際に戦没者  
の方々が放置されている  
という現場を目の当たり  
にして、当初抱いていた  
不安よりも、「こんな寂  
しい場所の冷たい土の中  
から早く助け出してあげ  
たい」という気持ちの方  
がいつの間にか大きく  
なっていました。また、  
「お国のために」という  
教育を受け、そして実践  
した方々への報いがこれ  
なのか。国は現在の現  
状を臭いものに蓋をする  
ことと見て見ぬふりをし、  
憲法9条を含めた改憲や  
愛国心教育を進めるのか  
という強い憤りを感じず  
にはいられませんでした。

戦争の惨たらしさを、真  
に身をもって教えてくだ  
さっている戦没者の方々  
に報いるためにも、また  
子供達に平和で明るい未  
来を残すためにも、二度  
と日本が戦争をする国に  
ならないよう、今後も平  
和活動に参加していきたい  
と思います。

### みんなの手で

兵藤啓一郎



素人が掘っただけで遺  
体が出てくる状況はやは  
り異常なことだと思いま  
す。しかし60年以上たっ  
た今、壕は確実に埋まり  
つつある中で、少人数の  
素人が大きな石や土砂の  
除去、細かい砕けた骨が  
木片か石なのかといった  
判別の難しさなどを考え  
るとやはり限界がありま  
す。  
これから国や県に働  
きかけるのは必要ですが、  
教育機関などの戦跡の調  
査と保存といった歴史的  
学術として学生に働きか  
けていくことで、もっと  
多くのボランティアを増  
やして、少しでも多くの遺  
体の収容に繋がればと思  
います。

亡くなっていく人の方が  
多くいると思うけれど、  
私の人生の中で発掘ツ  
アーに参加できるチャン  
スがあつて本当に良かった  
と心から思っています。  
一生の宝になるような  
貴重な経験をさせて頂い  
て久留米運送、久留米運  
送労働組合様に感謝して  
います。ありがとうございます。

### 子や孫の世代まで

實松 智也

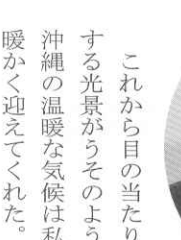


「遺体収容体験ツアー  
に参加する」と聞いた時  
正直とても恐怖感を覚え  
ました。「遺体!」なぜ?  
という思いでした。実際、  
戦争で亡くなった人々の  
遺骨や遺体を探している  
という事実も知らなかつ  
たし、まさか自分がその  
ような活動をするのは  
思ってもいなかったこと  
でした。  
遺体収容当日、壕を掘  
るだけでもとても体力の  
いる作業でした。周りで  
薬草などが見つかり始め  
ると、私も必ず見つけた  
ら参加するのは、今回が  
初めてでした。数メート  
ル下の塹壕に先輩と2人  
で入り、土を掘り返しま  
した。その塹壕の奥には  
小さな小窓があり、そこ  
から米軍を迎え撃ってい  
た場所だと思われま  
す。土の下からは、多数の遺  
骨や遺留品が出てしま  
した。そして作業がそろ  
そろ終わろうとするとき、  
先輩がふと見た先に1体  
分の遺骨が埋まっていま  
した。その遺骨を手に取  
り、六十数年間この方  
がどういう気持ちでここ  
に眠られていたのかとい  
うことを考えました。き  
つと、この方は私たちに  
「こころ早く出して欲  
しい」と訴えかけていたの  
かもしれない。私も子  
をもつ親として、この体  
験を通して、ここで体験  
したことを子や孫の世代  
まで幅広く伝え、多くの  
方に戦争の悲惨さを絶対  
に風化させてはいけない  
と強く感じました。

ば家族の元へという気持  
ちはみんな同じだと思  
います。  
この会を更なる飛躍に  
期待します。このツ  
アーに参加された皆さん!あ  
りがとうございました。

### 戦争を風化させないために

森光 裕美



「遺体収容体験ツ  
アーに参加する」と聞いた時  
正直とても恐怖感を覚え  
ました。「遺体!」なぜ?  
という思いでした。実際、  
戦争で亡くなった人々の  
遺骨や遺体を探している  
という事実も知らなかつ  
たし、まさか自分がその  
ような活動をするのは  
思ってもいなかったこと  
でした。  
遺体収容当日、壕を掘  
るだけでもとても体力の  
いる作業でした。周りで  
薬草などが見つかり始め  
ると、私も必ず見つけた  
ら参加するのは、今回が  
初めてでした。数メート  
ル下の塹壕に先輩と2人  
で入り、土を掘り返しま  
した。その塹壕の奥には  
小さな小窓があり、そこ  
から米軍を迎え撃ってい  
た場所だと思われま  
す。土の下からは、多数の遺  
骨や遺留品が出てしま  
した。そして作業がそろ  
そろ終わろうとするとき、  
先輩がふと見た先に1体  
分の遺骨が埋まっていま  
した。その遺骨を手に取  
り、六十数年間この方  
がどういう気持ちでここ  
に眠られていたのかとい  
うことを考えました。き  
つと、この方は私たちに  
「こころ早く出して欲  
しい」と訴えかけていたの  
かもしれない。私も子  
をもつ親として、この体  
験を通して、ここで体験  
したことを子や孫の世代  
まで幅広く伝え、多くの  
方に戦争の悲惨さを絶対  
に風化させてはいけない  
と強く感じました。



真剣に収容作業をする参加者

